

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第68回埼玉県公衆衛生事業功労者表彰

令和6年10月25日(金)第68回埼玉県公衆衛生事業功労者受賞者の表彰式が埼玉県庁第三庁舎講堂において執り行われた。当会から推薦した瀧沢義教氏(獨協医科大学埼玉医療センター)、坂口武司氏(なんてんクリニック)、松尾千賀子氏(埼玉医大総合医療センター)、矢作勝江氏(埼玉メディカルセンター)の4名が公衆衛生功労者として埼玉県知事表彰を受賞しました。受賞者の皆様、このたびは誠にありがとうございました。

4名を代表として瀧沢様の喜びの一言をご紹介します。

獨協医科大学 埼玉医療センター
瀧沢 義教

この度、埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。この栄誉ある賞にご推薦、ご尽力いただきました埼玉県臨床検査技師会の松岡会長をはじめ、理事の皆様、関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

今回の受賞は、長年の生理検査研究班での活動、埼玉県医師会精度管理事業での活動、埼玉県医学検査学会・実行委員長としての活動やチーム医療活動などを評価いただいたものと思います。

これらの活動を通じて多くの方と出会い、たくさんを経験し、学ぶことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後は、この賞を励みに微力ながらも埼玉県民の皆さま方のため、埼玉県臨床検査技師会の発展に少しでも貢献できるよう日々、努力してまいります。

この度は、誠にありがとうございました。



写真左より松尾千賀子氏、瀧沢義教氏、矢作勝江氏
坂口武司氏(欠席)

深谷市福祉健康まつり開催される

令和6年10月27日(日)深谷市総合体育館(深谷ビクタートル)にて「第19回深谷市福祉健康まつり」が開催された。埼玉県臨床検査技師会ブースに市民約420名が来場され、盛況なイベントになった。



以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

熊谷外科病院
大澤 夏澄

今回、10月27日に開催された深谷市福祉健康まつりにスタッフとして参加させていただきました。当日は、指先を用いた血管年齢測定を行いました。侵襲性がなく短時間でできる検査は市民からとても好評で、当日は400名以上の方に参加していただきました。1年に1回、この検査をするために来場されている方もおり、去年より結果が良いことに喜ばれていました。参加人数が多かったため、ひとりひとりの方とお話する機会は少なかったのですが、思った以上に健康に気を付けて食事や運動をしている方がおり、驚きました。



イベントに参加するのは初めてで不安でしたが、他院の先輩方も接点を持つことができ、情報共有ができたので、貴重な経験となりました。今回の経験を今後の業務に生かし、業務の向上に努めたいと思います。

埼玉医科大学病院
高橋 佑弥

今回、第19回深谷市福祉健康まつりにスタッフとして参加し、市民の方々の血管年齢測定を行いました。当日は、とても大好評で朝から想像を上回る多くの方々に参加いただきました。検査を行い結果についての説明をした際に、市民の方から普段どのようなことに気をつけて生活を送っているのかを詳しく教えていただきました。



食事だけでなく、運動や休息など多方面から気をつけていらっしゃる方が多く、大変驚きました。中には測定結果が実年齢よりも上回ってしまい落ち込む方もおりましたが、今後改善していくために心がけて欲しいこととお話すると、とても前向きに考えてくださり、やりがいを感じることができました。

また市民の方と会話しながら検査することで、自分自身の生活習慣について見直すきっかけとなったとともに、明るく楽しそうにお話してくださる姿を見てコミュニケーションの大切さを改め

研究班研修会報告

テーマ **凝固検査を見つめ直す 基礎から経験事例まで part②**

- ・凝固時間検査をひもとく ～ 基本からクロスミキシング～
- ・凝固検査の試薬特性と結果の見方

主催 血液検査研究班

実施日時：2024年9月27日 19時00分～21時00分

会場：さいたま市民会館 おおみや (RaiBoC Hall) 6階 集会室1

教科・点数：専門教科-20点

講演 1：凝固時間検査をひもとく ～ 基本からクロスミキシング～

講師 1：野間 允子 (PHC株式会社)

講演 2：凝固検査の試薬特性と結果の見方

講師 2：吉澤 悟 (壮幸会 行田総合病院)

参加人数：会員19名 賛助会員5名

出席した研究班班員：中山智史 堀内雄太 澁川絵美 吉澤悟 加藤鉄平 石田沙妃 島田崇史
窪田勝己 山崎淳也

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、講演1 生体内における血栓形成から線溶まで止血機構の作用機序など基礎的なことから凝固時間検査について目的、クロスミキシングについての講演が行われた。講演2 凝固検査で用いられる試薬特性や実際に臨床で見られたデータを提示しての解説が行われた。

凝固時間検査としてPT (プロトロンビン時間) やAPTT (活性化部分トロンボプラスチン時間) などがあり、線溶検査としてFDP (フィブリノゲン・フィブリン分解産物) やDダイマーなどがある。PTは外因系と共通系凝固因子の凝固活性の確認に用いられ、VII、X、V、II、I因子の凝固活性を総合的に判定するスクリーニング検査である。また、経口抗凝固薬であるワルファリン使用時のモニタリングや肝機能の評価に用いられる。PTは報告単位が複数あり秒以外にINRや活性%がある。INR (国際標準比) はワルファリンのモニタリングで使用される単位であり、標準化のため試薬ごとに設定されたISI (国際感度指数) 値を用いて算出される。ISIが小さい試薬は凝固活性の変化をとらえやすくモニタリングに適しているため、ISI=1.0の試薬を使用するのが望ましいとされる。APTTは内因系と共通系凝固因子の凝固活性の確認に用いられ、XII、XI、IX、VIII、X、V、II、I因子の凝固活性を総合的に判定するスクリーニング検査であり、血友病やVon Willebrand病などの凝固因子欠乏症・分子異常症の確認やヘパリンのモニタリング、肝機能低下による凝固能低下の確認などに用いられる。APTT試薬は標準化されておらず、未分画ヘパリンやLA (ループスアンチコアグラント) に対する感受性が試薬ごとに異なるため、使用試薬の特性把握が必要である。凝固検査延長時の精査としてクロスミキシング試験があり、患者検体と正常血漿を混合し即時反応と遅延反応を確認することで、延長理由が因子欠損によるものなのか凝固因子に対するインヒビターによるものなのかLAによるものなのか推測が可能となる。

凝固検査は様々な要因が検査結果に影響を与えるため、正しく結果を得るためには凝固検体取り扱いの関するコンセンサスを遵守し、得られた結果を正しく理解するためには検査前プロセス、疾患、試薬特性、治療などの知識を有し、考える力を持たなければならないと考えさせられる研修会であった。

(文責：加藤鉄平)

テーマ 超音波検査士試験対策 超音波基礎分野

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年10月6日 10時00分～16時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 師：浜田 聡明（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

参加人数：会員71名 賛助会員1名

出席した研究班班員：南雲涼太 工藤淳子 松平悠 横尾愛

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では11月の試験に向けて「超音波検査士試験対策 超音波基礎分野」の講義であった。

講師は浜田聡明氏にお願いし、午前中は「超音波の基礎、原理と方式」を、午後は「装置の調整、アーチファクト、ドプラ法」の講義が、適宜休憩を挟みながら行われた。講義の後には事前に配布した問題集の解説の時間も設けられていたが、設問数が多いため、限られた時間内では数問のみの解説となった。研修会終了後には解説付きの問題集を参加者に送付することとし、参加者自身で後日確認してもらおう形をとった。講義の資料も事前配布されているため、研修会内で分からなかったところを再度見直しや確認を行ってほしい。研修会中に質問等は出なかったが、今後疑問に感じたことや分からないこと等、質問があれば講師の方や生理研究班へ連絡するよう伝えた。

ほぼ丸一日という今回の研修会も長丁場だったにも関わらず多くの会員の方々が受講し、超音波検査士試験直前の超音波の基礎に対する関心の高さがうかがえた。

解説付き資料は200ページを超える内容のため、受講者の皆様には今回の講義内容を参考にしておいて試験本番までにしっかりと超音波の基礎を習得してもらいたい。

(文責：横尾愛)

テーマ 2024年認定試験直前!! スライドセミナー 第2弾

主催 細胞検査研究班

実施日時：2024年10月10日 18時00分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 師：阿部 直也（北里大学 医療衛生学部 医療検査学科）

柴田 真里（上尾中央総合病院）

田中 佳緒（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員197名 非会員1名 学生49名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 野本伊織 猪山和美 稲山拓司

小川弘美 並木幸子 加藤智美 中山美咲

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、認定試験に向けた対策として行っているスライドセミナー第2弾を行った。講義では消化器、体腔液、泌尿器、その他領域から30問の設問形式で細胞像を写真で提示し、各担当の講師が解説を行った。

まず阿部氏より消化器、その他領域の解説が行われた。消化器領域では胃・膵臓のEUS-FNA検体や膵胆管ERCP検体、肝臓検体と幅広く取り上げられており、それぞれの設問にある良性病変、悪性病変を構造・細胞異型の所見で比較していた。さらに胆汁の腺癌では判定基準を用いた詳細な解説があり鏡検にも活かせる内容であった。その他領域は口腔、耳下腺で過去問を意識した典型例の出題であった。

次に柴田氏より体腔液、泌尿器領域の解説が行われた。体腔液領域では反応性中皮細胞、悪性中皮腫、腺癌の提示があり出現様式や個々の細胞所見を表で対比した鑑別が行われ、理解し易かった。また、ギムザ染色を用いた上皮性悪性腫瘍と血液疾患の解説も加えられ充実した内容であった。泌尿器領域は出題傾向の高い高異型度尿路上皮癌をはじめ、良性症例（デコイ細胞、良性尿路上皮細胞）や腺癌が解説され、前年の試験で出題されたセミノーマについての丁寧な解説も行われた。

最後に田中氏よりその他領域の解説が行われた。その他領域は脳、骨軟部、唾液腺、リンパ節、絨毛疾患とバラエティーに富む内容で過去5年間の出題傾向に沿った設問であった。特に脳腫瘍や骨軟部では腫瘍の概要、細胞像の解説に加え、好発年齢や好発部位といった臨床所見から読み解くポイントも含まれ試験対策に有用な内容であった。

今後も認定試験に向けた対策として研修会を行うべく、参加者のニーズや試験の傾向を分析し、引き続き充実した研修会を企画していきたい。

(文責：船津靖亮)

テーマ 結核について

主催 遺伝子染色体検査研究班・微生物検査研究班 合同

実施日時：2024年10月18日 19時00分～21時00分

会 場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：結核の現状とIGRA検査について

講 師 1：諸江 雄大（株式会社キアゲン）

講 演 2：抗酸菌検査の概要 ～ 塗抹・培養・同定・感受性 ～

講 師 2：矢口 勇治（株式会社ミロクメディカルラボラトリー 長野ラボ）

参加人数：会員30名 賛助会員4名

出席した研究班班員：

（遺伝子染色体研究班）石橋佳朋 折原悠太 相良真理子 阿部秀俊 江原淳子

（微生物検査研究班）小棚雅寛 今井 芙美 酒井利育 佐々木真一 伊波嵩之 大塚聖也
渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、遺伝子染色体研究班、微生物検査研究班合同で「結核について」をテーマに開催した。

諸江氏からは、国内外における結核の現状と結核感染診断のIGRA検査について解説があった。2022年の統計では結核罹患率が8.2となり低まん延国となったが、その率は他の先進国に比べるとまだ高い。結核は、高齢者層と西日本の都市部において多く、また、日本の新規登録結核患者のうち外国出生者の国籍別内訳でも大半が近隣アジア諸国であることから、今後高まん延国からの入国には事前にIGRA検査の実施が求められるとのことであった。IGRA検査は細胞免疫反応をみることにより潜在性結核感染症を診断する方法であり、結核の接触者健診や発病リスクの高い方に対して広く用いられている。国内で市販されている2種類の検査キットについて、それぞれの特徴や検査概要、併せて2021年に改訂されたインターフェロンγ遊離試験使用指針にも触れ、日々の医療活動に参考にさせていただきたいとの話であった。

矢口氏からは抗酸菌検査の塗抹鏡検、培養法、同定、感受性、遺伝子について解説があり、病巣部から結核菌を的確に検出するための適切な検体採取や搬送・保存条件が最も重要あること、また不適切な場合は正しい結果が得られず検査結果を誤って解釈してしまう危険性があるとの解説があった。遺伝子検査を組み合わせることでいち早く結核菌を検出ことができるが、

死菌と生菌の区別がつかないため治療のフォローアップに使用することはできない。抗酸菌検査には長い時間を要するため、患者の治療状況に応じた検査項目の選択が必要であることを感じた。

今回の研修会では「結核」をテーマに、潜在性結核および活動性結核の検査方法について学ぶことができた。結核は早期発見、早期治療が重要であり、検査の利点欠点を理解したうえで検査の実施、結果解釈することが求められる。本研修会の内容が日々の業務の中で参考になれば幸いである。

(文責：江原淳子)

テーマ **臨床工学技士の輸血治療との関わりについて 他職種から学び、輸血療法の理解を深めよう**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2024年11月8日 19時00分～20時15分

会場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：原口 博明（埼玉県済生会 川口総合病院）

参加人数：会員21名

出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 岸健太 廣田渉 佐々木翔太 志村祥太

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では「臨床工学技士の輸血療法との関わりについて」をテーマとして研修会を行った。

原口氏の講演は臨床工学技士の業務全般について、特に血液浄化療法に関して、血液透析編と特殊血液浄化（アフエレシス）編に分けてその原理から業務の実際について詳細な説明があった。血液浄化療法とは血液中に病因（関連）物質が存在する病的状態において、その物質や血液成分を除去することで病態の改善を図る治療法の総称である。輸血製剤を投与する患者の中で、腎不全を患い透析を行いながら輸血施行している患者が多く存在する。透析中の輸血手技に関して、ガイドライン等はなく各施設のマニュアルや医師の判断に委ねられて実施しているとのことであったが、カリウムを含む赤血球製剤と血小板製剤の投与において接続部位を変更していることで、輸血効果を上げていることが印象的であった。また持続的血液濾過透析法（CHDF）は主に循環動態の不安定な重症患者の腎補助療法であり、通常の血液透析（HD）の4時間を持続的血液濾過透析法では48時間かけて行うため、透析回路とは異なるルートから輸血を施行するとのことであった。またアフエレシスの血漿交換時には輸血検査においてFFPやアルブミン製剤の準備が必要となる。今回の研修会でアフエレシスの種類や処理量についての説明があり、今後血漿交換があった際には原因疾患や血漿交換の方法、処理量についての知識を活かして業務を行っていきたいと感じた。

輸血検査において血液製剤を迅速に準備することは大前提となるが、血液製剤の投与方法を理解することも非常に重要である。しかし、実際の現場では臨床検査技師が血液製剤の投与に立ち会う機会は少ないと考えられるが、今後のタスクシフト業務も考慮し、他職種との連携を深め、知識を習得することで安全な輸血療法の実現に貢献したいと考える。今後も引き続き日常業務で役立つような研修を行っていききたい。

(文責：宮澤翔子)

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第9回 理事会議事録**

日時：令和6年11月14日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：I. 行動報告 II. 報告事項
III. 承認事項 IV. 議題

出席：松岡 猪浦 山口 濱本 西田 三木
佐瀬 網野 伊藤 塚原 神嶋 笛木
長谷川 神戸 小林 工藤 久保田
原 土田

(監事)遠藤

欠席：(理事)阿部 藤原 長岡

(監事)細谷

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は19名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和6年10月10日～令和6年11月13日)

10月10日(木)令和6年度第8回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、伊藤、
藤原、塚原、神嶋、長谷川、笛木、
神戸、小林、工藤、久保田、長岡、
原、土田、細谷

10月10日(木)令和6年度 検査と健康展 会場
打合せ：塚原

10月10日(木)令和7年賀詞交歓会及び各賞受賞
記念祝賀会 会場打ち合わせ：
塚原、笛木

10月17日(木)第52回埼玉県医学検査学会実行委
員会：伊藤、三木

10月20日(日)タスクシフト講習会(埼玉029)：
猪浦、長谷川、小林、工藤、藤原、
佐瀬

10月22日(火)POCT技術委員会：猪浦

10月22日(火)会計作業(事務所)：

工藤、小林、神戸

10月24日(木)第19回深谷市福祉健康まつり

事前準備：塚原

10月26日(土)関甲信支部幹事会：松岡、猪浦

10月26日(土)関甲信支部・首都圏支部内連絡会
議：松岡、猪浦

10月27日(日)第19回度深谷市福祉健康まつり：

塚原、笛木、阿部

10月30日(水)会計部会議：

工藤、小林、山口、松岡、神戸

11月8日(金)川越保健所精度管理立入調査：

松岡

11月8日(金)全国「検査と健康展」前日準備：

塚原、長谷川、笛木

11月9日(土)全国「検査と健康展」：

塚原、濱本、長谷川、神嶋、笛木、
土田、藤原、西田

11月12日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委
員会：松岡、伊藤、藤原

11月13日(水)埼玉県精度管理立入調査：松岡

II. 報告事項

1 事務局

1)事務員の採用について

2)11月29日(金)埼玉県による法人立入り検査
が実施予定。

2 総務部

1)10月20日(日)タスクシフト講習会(埼玉
029)を開催した。(別紙資料1)

2)11月15日(金)だより第546号発行予定。

3)11月17日(日)タスクシフト講習会(埼玉
030)開催予定。

担当理事：佐瀬、濱本 藤原、笛木、塚原、
三木

4)2月23日(日)タスクシフト講習会(埼玉
032)開催予定。

3 事業部

1)10月3日(木)2024年度第2回青年部委員会
会議を行った。(別紙資料2)

2)10月10日(木)検査と健康展についてコルソ
担当者と打合せを行った。(別紙資料3)

3)10月10日(木)賀詞交歓会・祝賀会について
ステラ・デル・アンジェロ担当者と打合せ

- を行った。(別紙資料4)
- 4) 10月27日(日)第19回深谷市福祉健康まつりへ参加した。(別紙資料5)
- 5) 令和6年度 都道府県技師会リーダー育成研修会について、日臨技へ開催にて回答を行った。
- 4 学術部**
- 1) 10月1日(火)令和6年度第2回研究班運営委員会会議を開催した。(別紙資料6)
- 5 精度保証部**
- 特になし
- 6 会計部**
- 1) 令和6年度正会員費13名65,000円、入会金12名12,000円、合計77,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金97,000円の入金があった。
累計197,000円/4回
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第545号Web版6p31,900円を支払った。
- 4) 日本赤十字社に精度管理、譲渡血液代65,076円を支払った。
- 5) 極東製薬工業より疑似便を用いた便潜血試験の精度管理方法に関する特許権等の譲渡対価310,944円の入金があった。
- 6) 会計部会議を開催した。(別紙資料7)
- 7 精度管理委員会**
- 1) 令和6年度埼玉県医師会臨床検査精度管理の速報値をHPに掲載した。
- 8 一都八県会長会議**
- 特になし
- 9 日臨技関甲信支部**
- 1) 10月26日(土)関甲信支部内連絡会・支部学術会議、関甲信・首都圏支部学術会議が開催された。(別紙資料8)
- 10 日臨技**
- 特になし
- 11 第52回埼玉県医学検査学会**
- 1) 10月17日(木)第13回実行委員会が開催された。(別紙資料9)
- 12 第53回埼玉県医学検査学会**
- 1) 11月12日(火)第1回実行委員会が開催された。

Ⅲ. 承認事項**1 事務局**

1) 会員動向(令和6年度分)

令和6年11月1日現在
会員数 3,679名[令和5年度会員数3,572名]
(新入会員269名)
賛助会員 73社[令和5年度71社]
承認された。

2) パートタイマー就業規則の改定について
(別紙資料10)

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 事務員の冬期賞与について

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

4) 事務所の冬季休暇について

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 遺伝子染色体検査研究班班長の体調不良により折原悠太班員を班長代理としたい。

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2) 研究班の退任について

一般検査研究班：中川禎己氏

(小川赤十字病院)

退任日：令和6年9月30日

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 査読委員の退任について 榎本英雄氏

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4) 査読委員の承認について

島村明花氏(日本医療科学大学)

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会

特になし

9 第53回埼玉県医学検査学会

- 1) 学会HP作成について、HP委員会へ協力を要請したい。

上記の件について、伊藤隆史学会担当理事より発言があり、審議の結果、例年通り、HP委員がサポートすることについて、承認された。

- 2) 学会テーマ・カラーについて

学会テーマは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」、学会カラーは、「コスモス」とする。

上記の件について、伊藤隆史学会担当理事より発言があり、承認された。

10 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会

特になし

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

冬は、お鍋におでんにお酒と体の中から温める食べ物がおいしい季節ですね。皆様も体の中から温めていますか。先日、開催された第52回埼玉県医学検査学会も終了し、学会長をはじめ関係者の方々も安堵して日常業務に戻られている頃ではないでしょうか。また、発表された演者の皆様大変お疲れさまでした。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年から賀詞交歓会が中止となっておりますが、2025年1月17日(金)に5年振りに「令和7年賀詞交歓会及び各賞受賞記念祝賀会」を開催できる運びとなりました。駅から近くお洒落な会場で、他施設の皆様と交流を深める時間を過ごしていただければと、執行部一同、皆様のご参加をお待ちしております。

それでは、2025年が皆様方にとって素晴らしい一年になりますように。

(笛木 記)

